

第1回 島田市旧市内小中一貫教育推進検討委員会 概要

学校教育課

日時：令和5年7月24日（月）午後7時～9時

会場：島田市役所 会議棟大会議室

出席：委員15人（有識者1人、地域住民代表6人、保護者代表4人、学校長4人）
事務局（教育部長、学校教育課長、主席指導主事、学校教育係長）
オブザーバー（教育長）

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 教育長挨拶
- 4 委員紹介
- 5 委員長、副委員長の選任
- 6 協議

(1) 事務局説明

- ・島田市では、「夢育・地育」を基盤に、小中連携や地域の教育力を生かした教育を大切にしながら、9年間を見通した小中一貫教育を進している。
- ・小中一貫教育のメリットとして「指導に連続性が生まれる」「9年間を見通した系統的な教育を実現できる」「中学進学への不安解消、中1ギャップの軽減、不登校の減少等につながる」「地域・家庭・学校が一体となって子供を育てる」などが考えられる。
- ・小中一貫教育の推進に向け、多方面から課題を明らかにしていく必要がある。旧島田地区の人口や年少人口比率などを参考に、10年後、20年後の長いスパンで、小中学校の立地場所などの地理的な視点も持って、検討していきたい。

(2) 委員からの意見

ア 小中一貫教育について

- ・小中一貫教育のメリット・デメリットを明確にし、子供にとってベストの選択をしたい。
- ・小中一貫教育を進めるとのことだが、施設が小学校と中学校と違い、今と変わらなければそのままよい。
- ・小中一貫教育は、一つの学校に小学校と中学校があるというイメージで建物が離れていたのでは、意味がないのではないか。
- ・学校は別の所にあるが、どのように小中一貫教育を進めるかということは非常に難しく、課題がある。
- ・小中一貫教育を進めることは、現三小の立場は具体的にどのように関わっていけばよいのか。

イ 旧市内小中学校学区再編について

(ア) 各学校区の状況

- ・二小は中溝町の子供が多く、街中の子は少なくなっていると感じる。
- ・三小の問題だけでなく、いろいろな問題がある。
- ・四小は旗指付近が増えていた、本通や市役所周辺があまりいないので、人数は変わらないが住んでいる場所が変わってきている。
- ・五小は全員二中だが、旭二丁目は六合中の方が近い。
- ・高島地区は目の前に五小があっても、避難地は六合小学校であり防災の観点からすると問題がある。
- ・児童生徒の姿を見かけない現実があり、自治会として何らかの対策を立てる必要がある。
- ・地域の行事に子供を誘い入れるイベントを考えたい。
- ・地域と学校のつながりは必要だと思う。

(イ) 学区について・再編について

- ・その時代の人数により学校が建てられ、学区が決められてきた。
- ・30年後まではどこの学校も2クラスずつあると思うが、島田市は今後のビジョンをどのように持っているか。
- ・過去、現在、未来の島田市の状況を、地域に広めていく必要がある。
- ・2060年は二小、三小、五小は一学年1クラスになる可能性がある。単学級の学校が3校となるが、それでよいのか。他校と統合し、新しい学校を作るなど、将来を見据えて考えていく必要がある。
- ・学校が減ると遠くまで安全に通えるかが心配になる。
- ・三小がなくなったら、遠い学校まで通わなければならないのか。
- ・北部地区小学校、一小が統合されるが、旧市内小学校においても2060年に人数が減って1クラスになると、同じ状況が待ち構えている現実がある。
- ・学区再編は、通学路の安全性も考慮したい。
- ・旧島田市の学校は比較的コンパクトで安心して通える学校だと思う。
- ・校舎や地域のことを考えると簡単ではないが子供たちが安心して通える環境をどう作っていくか考えていきたい。
- ・学区の再編については、具体的にイメージできない。
- ・学区再編において考えることは区割りなのか、地域なのか不明。
- ・子供の人数が減り、学校の数も減らすと学区の編制も考えざるを得ない。

(ウ) 再編の今後に向けて

- ・学区は決まっているが、学校を選べるよう選択肢があっても良いと思う。
- ・自転車通学か徒歩通学か境目ではあるが、選択ができれば良いと思う。
- ・仲が良かったとしても離れたくなることもあるためフリーに学校を選べる仕組みがあれば良いと思う。

エ 三小の分離進学について

(ア) 登下校について

- ・一中の登下校は裏通りを通るから不安という声もあれば、二中の登下校は大通りだから防犯上は安心だが、交通安全上は危険という意見がある。

(イ) 人間関係づくりについて

- ・三小の6年生は、20人位ずつに分かれて二つの中学へ進学している。
- ・三小の中学校進学については、各中学校とも3クラスに分かれるよう依頼をしている。
- ・少人数になってしまうことで、いじめの対象になり、不登校になるのではないかと不安がある。
- ・少人数だからいじめや不登校というのは別問題だとは思いますが、そこを関連付けてしまっている親たちがいることは確かである。
- ・人数が少ないから「いじめられる」「不登校になる」は、イメージであり、報告はない。
- ・少ない人数でも、慣れればどこの小学校出身かなどは話題にならない。
- ・一つの小学校が二つに分かれることで、仲のいい子が皆自分と違う中学校に行ってしまうパターンはあり得る。
- ・中学で分かれても人生いろいろな人との出会いがある。
- ・三小の子供のことを考えると全員一緒の中学校に上がることが願いとして出てくるのは当然だと思う。
- ・三小の中学校進学は、一中か二中かを選べたらどうか。
- ・栄町の児童は一学年に1人いるかいないかで寂しい思いをして一中に通っている。地区の防災訓練もその子はどこの輪にも入れない。

(ウ) 中学校での様子

- ・北部地区の学校から進学してくる子のクラス編成は不安にならないよう配慮している。
- ・最初は不安でも、時間の経過とともに人間関係ができてくる。
- ・いじめや不登校について心配や不安になることはわかるが、根拠も見当たらないため、つながりはあまりないと感じている。

(エ) その他

- ・三小学区の分離進学は昔から課題である。
- ・子供会で署名活動があった。一中学校に寄せることへの賛成意見、反対意見の両方がある。
- ・三小の問題と小中一貫教育をどう進めるかの問題は別だと思う。

オ 校舎の老朽化

- ・校舎建築の年、耐用年数の資料がほしい。
- ・三小は築38年経過している。
- ・二小は築43年以上たっていて、老朽化が進んでいるため学区編制と併せて考えていきたい。

(3) 委員長まとめ

- ・第1回目として、委員の立場からご意見をいただいた
- ・三小から二つの学校へ行く、というところがメインであった

- ・学区にとらわれず、近い学校を選択できたら良いという意見もあった。
- ・人口の減少だけでなく施設の老朽化という観点から施設一体型の小中一貫校をつくったら良いという意見が出された。
- ・今後は、いただいた意見を踏まえて子供たちにとって望ましい学区の在り方を協議しながら進めていきたい。

7 事務局から

- ・第二回目は9月下旬を予定している。
- ・次回の検討資料にするため、地域の課題等について9月5日までに提出を依頼